

個別施設における今後の方向性について

資料4

施設名	今後の方向性		築年数	長寿命化の方針
中央公民館	継続	目標使用年数（60年）の範囲内で、必要な修繕を行いながら、利用を継続する。また、隣接する働く女性の家との統合を含め、あり方を検討する。	47年	現状維持
荒尾市立図書館	複合化	2022年4月にあらおシティモール2階部分への移転を予定。 現在の図書館は移転後も閉架書庫等として利用することを検討する。 （※現在の図書館は中央公民館と同一の建物）	47年	（中央公民館の欄に記載）
少年指導センター （旧四小の一部）	継続	青少年の健全育成を担う拠点施設として、今後も継続する。 （※分庁舎、総合福祉センターと同一の建物）	40年	長寿命化する
深瀬の森体育館 （旧四小）	継続	必要な修繕を行いながら、目標使用年数（60年）の範囲内で利用を継続する。併せて、今後のあり方についても検討する。（耐震診断で耐震性があることを確認済）	47年	現状維持
万田体育館 （旧五中）	集約化	令和2年7月豪雨の影響により利用を休止しており、また、計画期間内に目標使用年数（60年）に達するため、他の体育館との集約化を検討する。	52年	長寿命化しない
西の峰体育館 （旧二小）	継続	必要な修繕を行いながら、目標使用年数（60年）の範囲内で利用を継続する。併せて、今後のあり方についても検討する。（耐震性無し）	48年	現状維持
万田中央体育館 （旧三小）	継続	必要な修繕を行いながら、目標使用年数（60年）の範囲内で利用を継続する。併せて、今後のあり方についても検討する。（耐震診断で耐震性があることを確認済）	45年	現状維持
東大谷体育館	継続	必要な修繕を行いながら、目標使用年数（60年）の範囲内で利用を継続していく。併せて、今後のあり方についても検討する。（新耐震基準）	35年	現状維持
宮崎兄弟資料館	継続	日中交流の拠点及び郷土学習の施設として、今後も継続する。 展示内容の固定化が課題となっているため、利用者のニーズ等を考慮しながら、施設のリニューアルについて検討する。	27年	長寿命化する